



指導室だより

第 47 号

編集・発行 府中市教育委員会学校教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町 2-24
電話 042-335-4063

自分の命は自分で守る力を きちんと身に付けよう

府中市立府中第四小学校

の指導によるセーフティ教室を実施した。

〈避難訓練〉



校舎内に侵入した不審者が教職員によって取り押さえられたことを確認し、全校児童が体育館に避難するという想定で訓練が行われた。訓練の約束「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」をきちんと守って整然と避難をしていった。

〈保護者対象警察署の話〉

市内の各小・中学校では、警察署を始めとする関係機関・保護者や地域住民と連携して児童・生徒の安全を守り、非行を防止するため、セーフティ教室を実施している。

府中第四小学校(後藤忠校長)では、5月17日に、不審者が校舎内に侵入したという想定での避難訓練および府中警察署職員

続いて、セーフティ教室が、1・2・3年、仲よし学級と4・5・6年の2回に分かれて警察署の指導のもと実施された。始めに後藤校長より「自分の命は自分で守るために大切な勉強です。警察署の人の話をよく聞いて、しっかり勉強してください」という挨拶があった。

◆警察署職員からの指導

次に、保護者を対象に警察署職員より子どもの非行防止についての話があった。そのためには「家庭が子どもにとって一番大事であること」特に、家庭では、やってよいことと悪いことをきちんと身に付けさせる。大きくなつてからではなかなか難しいので、小学生のうちにしっかりと善惡の判断を身に付けさせる。断る勇気、いけないことはやらないという信念を身に付けることが大事であるとの話があった。

「いかのおすし」 を守ろう

- いかない
- のらない
- おおごえを出す
- すぐににげる
- しらせる



危ない目に遭ったとき、大きな声で「助けて！」

校区で危険と思われるところを調べてきたビデオを見ながら確認した。
・まむし坂の周辺
周りがやぶや石垣になつており、見えにくい。
・白糸台3丁目周辺
塀があつたり、木が茂つているため見えにくく。

実際に普段目にする場所だけに児童もより興味・関心をもつて、見たり聞いたりしていた。
・駅の周辺
まとめとして、危険と思われる場所は、一人で歩かない、近づかないことを再確認した。
・地下通路の入口周辺
最後に、「いかのおすし」の確認をした。大きな声で「助けて！」の発声を、実際に学年毎に訓練をした。

自分の命は自分で守る力を身に付けるためのよい勉強の機会であった。

美しい花を育てて 豊かな心をはぐくもう

府中市立府中第一小学校



「大切に育ててください」という理事長のあいさつを聞く

NPO法人「府中PFS」では、平和（PEACE）、親睦（FELL OWNERSHIP）、奉仕（SERVICE）を基本理念に、明るい未来の創造を目指したまちづくりを目的として活動を展開している。

主な活動は、青少年の健全育成、高齢者を対象とした支援事業、地域経済の活性化等の取り組みである。

その活動の一つに、府中市内の公立学校や幼稚園へ花や野菜の苗を贈呈し、植物を育てる通して、子どもたちに植物を大切に育てる心や生命尊重など豊かな心をはぐくんでほしいという願いを込めた活動がある。

5月30日には、府中第二小学校（田中博校長）において「府中PFS」から同校への花の贈呈の会が行われた。会には栽培

ますが、たくさんの花が咲いているよいと思います」とのあいさつがあった。

続いて、「府中PFS」の中理事長より「私たちは、子どもたちの健全育成のために花や野菜の苗を学校に贈呈し、大切に育てることを通して、優しい心や草花を大切にする心をはぐくんでほしいと願って、この運動に取り組んでいます。

昨年度は花4400本、球根1950個、野菜の苗1650本を公立小学校19校と幼稚園3園へ贈呈し、皆さんの健全育成のために役立たせていただきました。

今日は、マリーゴールド、ベゴニア、サルビア、コスモスを持ってきました。大事に育てていただきたい、また、草花を育てることを通して優しい心もはぐくんでほしいと思います」とのあいさつがあつた。

「府中PFS」では、今年度も公立小学校19校、幼稚園3園に草花や野菜の苗を贈呈する計画である。

府中第二小学校では、植え込みの済ん

だ

協力し合って植え込みをする栽培委員会の委員の皆さん

熱心に花を植える栽培委員会の委員の皆さん

来ていただいた「府中PFS」の会員の皆さん指導のもとプランターへの植え込みの作業を行った。

委員たちは、花の色をいろいろ組み合

わせたり、草花の種類の組み合わせを工夫をしたりして植え込み作業を行うなど、協力し合いながら大変熱心に取り組んでいた。

《美しい花を育てて、豊かな心をはぐくもう》



協力し合って植え込みをする栽培委員会の委員の皆さん

だプランターを毎日子どもたちが目に触れやすい正門のところから玄関までの通路に飾り、児童の情操の陶冶と環境の美化に役立てていく。

また、水やりや草取りなどの草花の世話には、栽培委員会の委員が当たるが、みんなが草花を大事にし、優しい心を育てていってほしい。



本校は、児童数900人を超える府中の中でも一、二を争う大規模校である。学級数も26と多いため、子ども同士がクラスを超えて、学年を超えて交流する機会はなかなかものないのが現状である。

そこで、本校では「仲良く助け合う子」の育成を目指し、異学年の児童の交流を深めるため、たてわり活動を「団活動」として、特色ある教育活動の柱に位置づけている。特に本校の団の特色は、児童が居住している地区を母体として編成をしている点にある。そのため、集団への愛着心や団結力が高まり、学校でできたつながりを帰宅後、地

域へ広げる機会となっている。児童にとって月1回の団活動は他学年の友だちと関わる貴重な時間である。

以下、主な活動を紹介する。

今年は、どんな曲にする?」「みんなで楽しく歌える歌がいいんじゃない?」「その歌なら一年生でも歌えるね」

計画からコンサート当日までの間、一ヶ月以上。その間3ヶ月かけて行われる「ラララコンサート」本番を迎える。

このコンサートは、団活動の中でも一番の大きな行事となっている。練習を始めたばかりの頃は、なかなか声が出ず、また頗るに欠けていた集団も、コンサートが近づくにつれて気持ちも高まり、進んで振り付けを考えたりと独自の工夫を凝らす団が増えてくる。学年もクラスも違ふたりと独自の工夫を凝らす団が指してステージで歌を披露する。

教室で過ごす、特別な一日の始まり。午前中は、5~8のグループに分かれて予選を行い、それ以外は歌の練習、室内や校庭で遊び、勉強と、団のみんなで楽しく過ごす。午後は、全児童が体育館に一堂に会し、見事予選を通過した数組の団が優勝を目指してステージで歌を披露する。

昨年は7月の夏の暑さに加え、決勝に残った6つの団の意欲と勝ち残った団を応援する子どもたちの熱気に体育館の温度はグングン上昇。ステージ上でたくさんの拍手を浴びる団を見て、「来年こそは!」と新たな目標を作った一日となつた。

《もちつき大会》

三学期はじめ、府中第六

小児童にとって最も楽しみな行事は、PTAと「おやじの会」の協力のもとで行われる「もちつき大会・お

正月遊び」である。



わが校の特色ある教育 NO. 13

団活動 他学年との豊かなふれあいを目指して

府中市立府中第六小学校
教諭 永見 育子

《なかよし》

ラララコンサート

「今年は、どんな曲にする?」「みんなで楽しく歌える歌がいいんじゃない?」「その歌なら一年生でも歌えるね」

計画からコンサート当日までの間、一ヶ月以上。その間3ヶ月かけて行われる「ラララコンサート」本番を迎える。



みんなで協力して清掃活動を行ってことで、団の結束を深めるだけでなく、自分たちが住んでいる地域を知り、自分たちができることで地域に貢献することがこの活動のねらいである。

員で活動に向けて準備をする。

みんなで協力して清掃活動を行ってことで、団の結束を深めるだけでなく、自分たちが住んでいる地域を知り、自分たちができることで地域に貢献することがこの活動のねらいである。

当日は、保護者にも呼びかけ、一緒に参加してもらひながら地域のゴミ拾い、落ち葉掃きの補助をお願いした。袋一

杯に落ち葉を集め、街路樹の茂みに紛れている缶やたばこの吸い殻を見つけては「ごみってこんなにあるんだ」といふ。「この活動を続けると公園がきれいになるね」という児童の声がたくさん聞かれた。

そのほか、団対抗のゲーム大会、六年生を送るお別れ団活動と年々活動も広がりを見せている。地域を母体とした団編成には課題もある一方、「次は自分がリーダーとしてがんばる番」と、下級生の意識は高まり、責任感が出てきたように感じる。今後は、より主体的な活動となるように、また地域との連携を深める場として多様でさらに豊かな活動を目指していきたい。

た白を囲み、団の友だちの応援の元、力いっぱいもちをつき、つきたてのもちをお雑煮にして味わう。寒い日にみんなで食べるお雑煮は格別で何回もおかわりする様子が見られた。

コンサート当日。朝から団の

平成19年度 府中市教育委員会主催夏季研修会一覧

No.	研修名	対象	定員	期日	会場
I 五市合同専門研修					
1	国語「子どもが活きる国語科の授業づくり」	小	80	8／1・2	武蔵野総合体育館大会議室
2	国語「確かな学力を身に付けさせる指導技術」	中	20	8／3	府中市立教育センター
3	社会「問題解決的な学習指導の基礎」	小	80	7／30・31	調布市市民プラザあすなろホール
4	社会「問題解決的な学習指導の基礎」	中	20	8／8	狛江市役所高架下会議室
5	算数「算数の時間を楽しみにする子どもを育てる授業づくり」	小	80	7／24・25	調布市市民プラザあすなろホール
6	数学「意欲を高め、思考力をはぐくむ学習指導」	中	40	7／26	調布市市民プラザあすなろホール
7	理科「学習指導の基礎・基本」	小	30	7／30・8／1	狛江市立緑野小学校
8	理科「生徒の意欲を高める教材と指導の在り方」	中	40	8／1	府中市立教育センター
9	生活「生活科における読解力と実践報告」	小	60	8／2	三鷹市教育センター
10	図工・美術「2学期からすぐに役立つ実技研修と心の栄養 美術館での鑑賞のポイント」	小・中	40	8／1	府中市美術館他
11	音楽「音楽を楽しむ心情を育てる授業づくり」	小・中	40	7／26	武蔵野市立小学校（未定）
12	体育・保育「運動の特性を踏まえた指導の充実」	小・中	40	7／30	三鷹市立教育センター・三鷹市立第五中学校
13	体育・保育「心と体の健康づくりを推進する指導の工夫」	小・中	40	7／31	三鷹市立教育センター・三鷹市立第五中学校
14	家庭「学ぶ意欲を高める指導法」	小・中	30	8／7	狛江市立狛江第一小学校
15	技術「生徒が意欲的に活動する技術とのづくりのポイント」	中	40	8／1	調布市立第六中学校
16	英語「実践的コミュニケーション能力を高める指導」	中	40	7／24	狛江市役所高架下会議室
17	道徳「道徳授業力の1ステップアップ」	小	80	8／2・3	調布市市民プラザあすなろホール
18	道徳「道徳の時間の授業づくりの基礎・基本」	中	40	8／3	武蔵野市役所会議室
19	総合「総合的な学習の時間の基礎・基本」	小・中	30	7／27	狛江市役所高架下会議室
20	特別支援「児童・生徒のニーズに応じた支援を高めるため 教育の基礎・基本」	小・中	各40	8／2・6 8／3・7	三鷹市教育センター 府中市立生涯学習センター
II 不登校対応研修					
21	講義「不登校問題概論と不登校児童・生徒への対応について」 事例研究「不登校の児童・生徒の事例研究」	小・中	60	7／30	府中市立教育センター
III 学校教育相談研修					
22	「構成的グループエンカウンター」「学校教育相談概論と保護者とのかかわり方」「芸術療法による児童・生徒理解」	小・中	60	7／31・8／2	府中市立教育センター
IV IT研修					
30	Word & Excel（中級）	小・中	40	7／23・24	府中第一中学校
31	一太郎&Excel（中級）	小・中	40	7／23・24	府中第九中学校
32	Power Point（中級）	小・中	40	7／25	府中第一中学校
33	ホームページ・ビルダー（初級・中級）	小・中	40	7／26	府中第九中学校
34	学びの扉（初級・中級）	小・中	前40 後40	7／27	府中第一中学校
V 選択課題研修					
40	和太鼓実技研修	小・中	20	7／25・26	府中第三小学校
41	書写実技研修	小・中	20	7／23・24	府中市立教育センター
42	英語活動研修	小	40	8／6	府中市立教育センター
43	福祉施設体験研修	小・中	30	8／8・9・10	特養老人ホーム「あさひ苑」「よつや苑」 ふれあい会館・市内福祉施設
44	企業体験研修	小・中	3	8／1・2・3	イトーヨーカ堂府中店
50	パイプオルガン体験研修	小・中	200	8／22	府中の森芸術劇場 ウィーンホール

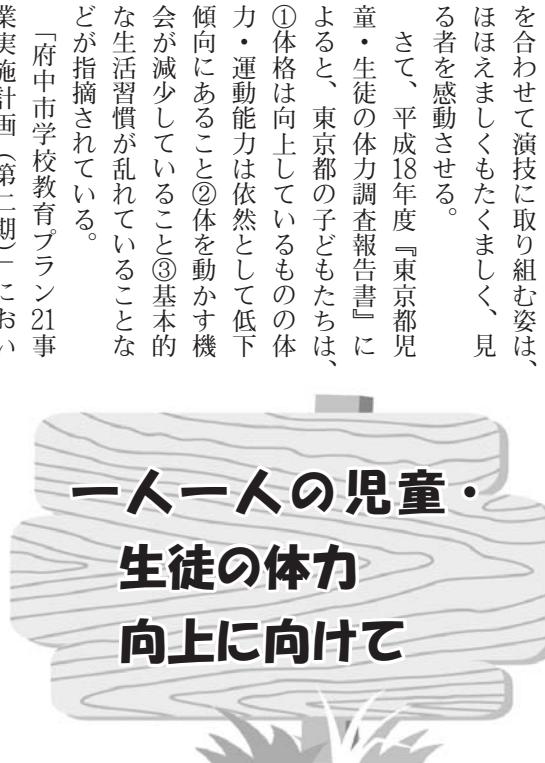
7月研修会・委員会等予定	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	2月	生活指導主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	3火	初任者等研修会	教育センター	人権教育の推進
	5木	道徳教育推進委員会	教育センター	全体会
	5木	算数・数学指導員研修会	教育センター	講演会
	6金	ICT活用推進委員会	教育センター	全体会
	9月	事務職員研修会	教育センター	学校現場における著作権について
	9月	特別支援学級代表者会	教育センター	代表者会・分科会
	12木	教務主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	13金	人権教育推進委員会	教育センター	全体会・分科会(指導案検討)
	17火	初任者等研修会	教育センター	宿泊研修課題設定等
	17火	開かれた学校づくり協議会	教育センター	小中一貫教育について
	19木	教育課題検討委員会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)

五月晴れの運動会。校庭には子どもたちの歓声が響き渡った。たくさんの保護者や地域の方々に見守られ、熱い声援を受けながら、一人一人が輝きを放つていた。力の限り走り、友達と心を合わせて演技に取り組む姿は、ほほえましくもたくましく、見る者を感動させる。

さて、平成18年度『東京都児童・生徒の体力調査報告書』によると、東京都の子どもたちは、①体格は向上しているものの体力・運動能力は依然として低下傾向にあること②体を動かす機会が減少していること③基本的な生活習慣が乱れていることなどが指摘されている。

「府中市学校教育プラン21事業実施計画(第二期)」においても、「体力づくりの強化」を大きな柱の一つとして取り組みを進めている。

本市においては、昨年度より体力向上委員会を設置し、児童・生徒の体力・運動能力の実態をさぐってきた。調査対象校において新体力テストを実施し、



データの分析を行った結果、跳力、敏捷性、持久力に課題があることが示された。課題の改善に向けて、小・中学校別に「体力向上プラン」を作成した。これは、日常の体育授業や遊びの中で楽しみながら取り組むことができる運動(遊び)事例をイラストや解説を添えて分かりやすく整理したもので、掲示資料として各校に配布し活用いただいている。

子ども自身がその取り組みの過程や結果をじっくりと見つめ、生活を振り返る中で、自らの体力づくりや健康づくりの礎を築き、今後に生かしていくことをする視点をもてるようになることが大切である。そして、生活の改善への見通しがもてなかつたりする児童・生徒には、個々に優しく丁寧な対応をすることで、挑戦する意欲を喚起するところが必要となる。ここに教員の指導力が求められる。教師の適切な支援によって、児童・生徒は、新体力テストを新しい自分の可能性に挑戦する機会としてとらえることができるようになるのである。

教員は新体力テストの結果を踏まえ、年間を通して児童・生徒の課題や発達段階に応じた運動の場や機会を意図的に設定してほしい。この教員の尽力が、児童の「体を動かす機会の減少」の改善につながると信じて疑わないと、(指導主事 佐々木淳)

確認したところであるが、この新体力テストの目的は、一人一人の児童・生徒が自分自身の体力や健康状態を知り、自らの生活に根ざした体力づくり、健康づくりを効果的に行なうことができるようになることがある。

人の児童・生徒が自分自身の体力づくりを効果的に行なうことができるようになることにある。

学校の近くを通ったら、プールから子どもたちの元気な歓声が響いてきた◆プールといえば昨年7月、埼玉県で事故があった。施設の不備、文科省の通知に示された整備内容の不徹底などが明らかになり、プール点検等管理運営上の問題点を残した◆失敗学の畠村洋太郎氏によれば、失敗の種類は、大きく3つに分けられるという。①織り込み済みの失敗(ある程度の損害やデメリットは承知の上で失敗)、②結果としての失敗(果敢なトライアルの結果としての失敗)、③回避可能であった失敗(ヒューマンエラーでの失敗)◆①と②の失敗は「失敗は成功の元」となり得る失敗である。状況・結果などがある程度予測できたり、経験からくる的確な判断で対処することができる。③の失敗は、失敗から更なる悪循環が生まれる失敗である。予想しておけば回避可能であったはずが、予想をしていなかったためにパニックに陥り、状況を悪くしてしまふ◆水泳指導に当たり「一に安全、二に指導、三、四がなくて五に安全」と口を酸っぱくして教員を指導したものである。子どもたちが安全で楽しい水泳ができるようにしたい(横山洋)

あとがき